



胡
桃
み

胡桃み

THINK & TALK
神道と音楽で縁を結ぶ
講中を訪ねて



新春
平成27年

ごあいさつ

年頭にあたりまして、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者各位の平安をお祈り申し上げます。

笠間稻荷神社では一年の締めくくりとなる昨年末の大晦日に、皆様方が身も心も清らかな状態で新年を迎えられますよう年越しの大祓を斎行致しました。

年が明けるということは古くなつたものが更新されて新しいものへと改まることがあります。遷宮が国を若返らせ、人々に新しい活力を与えるのと同じように、毎年その年の新たな神靈の力をいただいて、生命力の充実を図ることで平穏無事な暮らしが営めるようになります。

私たち日本人は古くからいろいろな神様や祖靈を祀り、その御加護を願うことで幸福で円満な家庭を育んできました。その家庭祭祀の中心となつているのが神棚であり、伊勢神宮の御神札と氏神様や崇敬する神社の御神札を受けて、御神徳にあずかれますよう、心をこめてお祀りして下さい。

古いものが改まり、更新されることによって活力を取り戻すということは、関心の高まりつつある憲法改正についても言えることです。生活の基である家庭内でのお祀りからも分かりますように、皇室の御祖神(みおやがみ)であり、また私たちの大御祖神(おおみおやがみ)である天照大御神さまを中心とする尊い神々によつて守られることによつて心の安らぎが得られ、感謝と祈りを繰り返してきたのが日本人の伝統的な暮らしぶりです。歴代の天皇陛下は国家と国民の繁栄を祈り続けてこられました。私たちの暮らいや精神的な支えの中心として陛下のご存在があり、その事により国民が一つにまとまってきたというのが日本の国柄の特徴です。天皇陛下の国家元首としての明記や家族保護の規定など、憲法は自らの手では非この麗しい日本の伝統文化を基盤とし、それを反映したものにしたいものです。

最後になりますが、東日本大震災の発生から間もなく四年となり、現在は神社の象徴ともいえる鳥居の再建に向けて取り組んでおりますので、神威を弥増すためにも何とぞ皆様のご協力、ご奉賛を賜りますようお願い申し上げます。

笠間稻荷神社 宮司 塙東男

笠間稻荷神社復興奉賛会



未曾有の大震災より
三年半が経過し、皆様
のご協力により復興工
事も着実に進み、よう
やく元の状態に戻りつ
つはありますが、鳥居
建立が残るなどまだ完
全復興には至っており
ません。

つきましては、一日
も早く信仰の場を取り
戻すため、今後も皆様
方のご協力ご支援を仰
ぎたく大変恐縮には存
じますが、引き続き格
別のご奉賛を賜りたく
宜しくお願い申し上げ
ます。

お問い合わせ先

TEL ○二九六一七三一〇〇〇一
笠間稻荷神社 復興奉賛会

◎ご奉賛について

一、ご奉賛は、ご参拝のおりか現金書留、
郵便振替、銀行振込のいずれでも結構
です。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様
にご奉告申し上げ、芳名簿に記し、ご
神前に献納し永く顕彰致します。

◎募集目標金額

三七一、三四八、〇〇〇円

◎振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇三五〇・一一六五〇八

宗教法人笠間稻荷神社

指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普)一一八二七一七

宗教法人笠間稻荷神社

代表役員 塙 東男

2

第29回

神道と音楽で縁を結ぶ

歌手／相川 濑氏
笠間稻荷神社 宮司／塙 東男

神様は感謝のこころに降りてくる

さざれ石は
一息で歌うこと

塙 初めてお会いしたのは鹿島神宮でしたね。

相川 猛暑の日でしたね。

塙 四年前の九月一日の例祭でした。わたしは神社本庁の献幣使、つまり神社本庁からの本庁幣という幣帛を献納するお使いの役で鹿島へ伺つたのです。

相川 初めて鹿島神宮に伺つたのは三月九日の祭頭祭というお祭りでした。たまたまその日が主人の誕生日で、事務所に祀る神棚を買い、お祭りを見て帰りました。その二日後の三月十一日に震災があつたので特に印象深く覚えています。その夏に震災からの復興を願うチャリティコンサートが開催されまし

た。そのご縁で少しづつお祭りに呼んでいただけるようになつて、祭頭祭、節分祭、九月一日の例祭と、年に三回は伺うようになつたんです。そして、例祭の日に塙さんのお隣の席に座らせていただきたのがはじまりです。その日は暑い、暑いといながら、お話をさせていただきました。

塙 思つたことをすぐ口に出して言うわたしの癖があの時も出てしまつて失礼しました。

相川 いいえ、ありがたかつたのです。御船祭りの時に「君が代」をわたしが歌うことになつていて、『さざれ石の、』という歌詞は「さざれ」と「石」とを分けてはいけない。「さざれ石」とひと息に続けなければいけな

い」と教えてくださいました。それを教えていただけたことが嬉しくて、御船祭りのあとに主人と一緒に塙さんのところへ挨拶に行こうと、ご不在でもいいからと笠間稻荷神社へ伺つたら、偶然にもいらつしやつてお会いすることができました。そこでいろいろな助言をいただきました。ほんとうにありがたい

笠間稻荷神社 宮司
塙 東男



ことだと思っています。

塙 ところで相川さんはどうして神社や神道に興味をもつようになられたのでしょうか。

相川 わたしは、葉室頼昭（元春日大社宮司）さんが書かれた『神道のこころ』という本を読んで興味を持ちました。それまではロックを歌っていて、歌詞に英語が出てくるので、英語を修得しなければなりませんでした。そんな時にあの本を読んで、日本語の素晴らしさが本の中にこんこんと書かれていて、日本人として、今まで生きてきて当たり前と思っていたことが、こんなに素敵なことだったのかと驚き感動したんです。それからテレビ番組で葉室さんと対談する機会があり、その時に葉室さんがおっしゃられたことがわたしにはとても響きました。改めて神道っていうものはすごいものなのだと若かったわたしの中には日本人としての誇りをもつという小さな種が投げ込まれたかのようでした。そのご縁で、最初は春日大社に通うというところから始まりました。その後葉室さんが亡くなられてから、もう一度本を読み返し、神様について知りたりなりました。そこで初めてご祭神を知ることにな

りました。春日大社のご祭神

が、どうして千葉から来ているのか、茨城から来ているのかといふところにとても興味が出て、だつたら第一殿にいらつしやる神様のところへ行こうとしたんです。それが震災の二日前のことです。個人的な参拝として、鹿島と香取に行かせていただいたんです。

塙 それはまさに鹿島立ちですね。先ほど国歌の話がでました

が、実は今日（十二月十日）は坂本九さんの誕生日なのです。今から五十年前、東京オリンピックの時に九ちゃんも国歌を歌つたのですが、その時に、さざれと石の間を切つて歌つたんです。それで九ちゃんにもわたくしは同じことを言つたのです。

塙 お護りいただいているんですね。お参りの仕方はいろいろあります。自分の生まれ育つたところの神様にお参りして、さらに著名なお社でもいい神社で、何かことがあるたびに参拝するというのを大切なことはあります。

相川 祖父と祖母は信心深い人でした。父方は

高野山に修行に行つたりして、弘法大師さまのことをずつとやつて

いた家系だったんです。それらがわたしに影響していると思う

相川 はい。祖父が氏子総代をやつていたのですが、もう亡くなってしまったんですけど、神社さんと塙 産土神といいますが、相川さんのところは比売許曾神社ですか、そちらにご参拝になられることはありますか。

本当のパワースポット

しくて難しくて。

相川 ほんとうに、君が代は難

が、ほんとうに、君が代は難



相川 七瀬 氏 Aikawa Nanase

生年月日：1975年2月26日 水瓶座
血液型：AB型 出身地：大阪

1995年「夢見る少女じゃいられない」でデビューして以来、今までのCDトータルセールスは1200万枚を越えている。毎年7月7日には、「七瀬の日」と題したLIVEを開催中。音楽活動以外にも絵本の出版や小説「ダリア」を出筆、また岡山県総社市、長崎県対馬市、鹿児島県南種子町の赤米大使として伝承文化継承の活動をするなど活躍の幅を多方面にも広げている。今年7月には日本の聖地の旅エッセイ「神結び」、12月に続編「縁結び」を出版。12月3日に初のトリビュートアルバム「A-Rock Nation」と今年の「七瀬の日」を収録したライブDVDを同時リリース。2015年11月にデビュー20周年を迎える。



ないと、駄目だよ。」ということを祖父母に言わせて育つていたので、そのことを一身に受け継いだのだと思います。

塙 最近パワー

スポットという言葉をよく聞きますが、日本の昔の磐座信仰に似ていますね。

パワースポットといわれる以前からそういったものがあるということですね。ところがマスコミは、パワースポットについて、○○神社の藤の木、そこがパワースポットだとか、○○とい

う樹木がパワースポットだとう取り上げ方をしているのですが、ほんとうは大神様のおられるところがパワースポットなんですね。ですから樹木だけがパワースポットだというのではないのです。

相川 銚子に猿田彦神社というのがあってここもお砂取り、お

水取りがパワースポットということで有名になつたんです。それをお聞きに行つたら、村の小さな神社にたくさん的人が来てくれることは嬉しいけれど、もう対応できません。これ以上、パワースポットということを書かれると近所に迷惑をかけてしまう。と年中一人で対応している宮司さんがおっしゃっていました。まず、みんなが利益が欲しいという気持ちが先なんですね。その前にまず感謝の気持ちを持たなくてはならない

と思います。自然に、家族に、命に感謝する。感謝することからはじめるということが、神様に近づく一番の近道なんじやないかと思うんです。まず自分が、ありがとう

という気持ちを持つことから何かが変わり出すのではないか。パワースポットといふ言葉で困っている神社さんは多いのではなか

塙 パワースポットという取



り上げ方が極端なんですね。世界の宗教でも、日本の神道でも、すべての宗教に共通しているのは「感謝」という言葉です。

相川 非常にシンプルですね。

塙 ですから自然の中での、刺激を受けたり、いろいろなものを受けたり、いろいろなものを書きたくなります。

相川 そうですね。また原稿を書きたくなります。

塙 原稿はどのように書きになるのですか。

相川 移動が多い仕事なので、新幹線の中とか飛行機の中とか、パソコンで書いたりとか、眠る前とか。今携帯が発達しているので、携帯で打つたりとか。

塙 詩人として作詞も同じようにされています。

相川 空き時

間で書いています。家では音楽を聴ける状況ではないんですね。子どもが三人いて、子ども達の音楽だとテレビをかけるので、音楽を書くモードに入れないです

相川 普通、神社でドラムは叩かせてもらえないですね。

塙 日本の雅楽は中国から入ってきてているでしょう。伊勢の神宮でも、雅楽の演奏や舞がありますが、それらは中国やベトナムから入ってきていますよね。

相川 そういうものは神社も寺も、神様に向かい演奏することによって多くの人が喜んで、神様に近くと、そういう機会を作る

ね。音楽を書く時は車で音楽を流して自分の頭の中に全部しみこませておいてから、どこででも書いています。

塙 音楽と言えば、テネシー州の有名なバンドマンを呼んで、拝殿の前でコンサートをしたことがあります。

浅野温子さんも神話を語るという舞台だとか、いろいろな人にやつてもらっているんです。

男性ばかり八人くらいのロックバンドだったんですが、ここでいろんな曲を弾いてもらつたんですね。

相川 音楽と言えば、テネシー州の有名なバンドマンを呼んで、拝殿の前でコンサートをしたことがあります。

相川 ああしてはいけないこうしてはいけないと、そういうのは神様に対して失礼なことです。ちゃんとした演奏であれば、聞き取れるわけですね。

相川 神社とロックとは近いと

いうことになりますね。十二月の十三日に『縁結び』というわたくしが書いた本が出ました。そして来年はデビュー二十周年となり、たくさん企画を考えています。第一弾は昔のヒットソングを、若い世代で活躍している方々にも歌つていただきたいと思います。トレビュートアルバム。そして、今年はわたしのプロデューサー、織田哲郎さんが今までいろんな人に書いた楽曲を、カバーしたCDを出す予定でいます。いつか神様の前で歌える日が来たら嬉しいです。

赤米を天皇陛下に献上

壇 相川さんは日本人の感性でものを書かれていますね。自分の経験したこと、神職の方とかにお会いになつて執筆なさつているのだなというのが伝わつてきましたね。あとは赤米についてお聞かせ下さい。笠間稻荷神社は稻の神様ですか。

相川 日韓友好のライブに招かれて対馬に行つた時に、たまたま車で迷い込んだのが赤米の田んぼの前だったんです。それで感動してこの赤米の田んぼは誰が持っているのだろうと歩いている人に聞きました。近くに住んでいるというので、話を聞

きに行つたんです。すると、その方は一人でとても苦労されていました。また、その時にご神事としての赤米の稻作が残つてあることを知りました。対馬と種子島と岡山に残つているのですが、皆さん、高齢化が進んで、次世代の担い手さんがいない。特に対馬ではその方が亡くなつたらお終いなんです。何千年とか続いてきているお祭りが絶えてしまうということを聞いて、「こんなに長く続いてきたものを、途絶えさせるわけにはいかない」と。この赤米を守つてあげたいと」思いました。MC（コンサートの演奏の合間に演奏者が話すこと）で、赤米をずっと護つていて欲しいと言つたんです。そうしたらああいう地方つて、各家庭にも放送されるんですね。

壇 有線放送ですね。

相川 それで赤米の田んぼの持ち主が、「なんか言つてるぞお」ってことで。わたしのことなどもちろんご存知ありませんので、あれは誰だと息子さん聞いたら、息子さんはわたしの歌を聞いていた世代で、大きだということになつたんですね。わたしは市長に、「手を貸す。わたしは大阪出身で、田

事としての赤米の稻作が残つてありますから、信頼関係を先に作りましまして。わたしも話もあって、これまでいつも話し合いが破綻していた事を聞かされました。わたしも間に入りましまから、信頼関係を先に作りましたから、信頼関係を先に作りました。わたしも間に入りましまして、何千年前から始まつて、みんなが赤米で一つになつてやつてきました。そうして去年、天皇陛下に献上米として、献上されたんです。それまでは見向きもされず、みんなのお荷物とまでもいわれていた赤米がみごとに息を吹き返して天皇陛下のもとへ行くということで、宮中からもいろんなお祭りごとが沢山やってきました。とても素晴らしいものを見せて頂きました。

壇 笠間稻荷の前の山を越えたところに古代のままの技法で古代米を栽培しているところがありますよ。農水省の役人だった方が、自分が担当した時に、古代米が大切だと実感し、何枚も田んぼに植えて作ったのです。それを石岡でお酒にしたんです。なかなか入手しにくい貴重

して、助けてあげて欲しい」という話をしたら、行政もそこに入りたいけれど、氏子さんが駄目という場合があつたり、行政事としての赤米の稻作が残つてあるところが日本に三箇所だけあることを知りました。対馬と種子島と岡山に残つているので、すが、皆さん、高齢化が進んで、次世代の担い手さんがいない。特に対馬ではその方が亡くなつたらお終いなんです。何千年とか続いてきているお祭りが絶えてしまふということを聞いて、こんなに長く続いてきたものを見絶えさせるわけにはいかないと。この赤米を守つてあげたいと」思いました。MC（コンサートの演奏の合間に演奏者が話すこと）で、赤米をずっと護つていて欲しいと言つたんです。そうしたらああいう地方つて、各家庭にも放送されるんですね。

壇 笠間稻荷の前の山を越えたところに古代のままの技法で古代米を栽培しているところがありますよ。農水省の役人だった方が、自分が担当した時に、古代米が大切だと実感し、何枚も田んぼに植えて作ったのです。それを石岡でお酒にしたんです。なかなか入手しにくい貴重な酒ができました。

相川 わたしは相川さんが相川さんの言葉で、きちんと話していただいたと、「神結び」や「縁結び」という本を書いていただいていることは、神社界にとつては大変にありがたいと思います。

壇 こちらこそ、ありがとうございます。

相川 舎らしい田舎がなく育つてきました。対馬に行つたり、種子島へ行くことが、故郷に帰るようで嬉しいです。「お帰り」と言われてどんどんふるさとが増えていく感じがします。あらためて日本つていい国だねと思います。自分の国と思えるような気持ちは、神様とのご縁だったのこれからも大切にしたいなと思っています。



祭事予定 一月

一日 歳旦祭

三日 元始祭

五日 斫始祭

七日 昭和天皇祭遙拝式

十日 初事比羅祭

十四日 尖閣諸島安全祈願祭

十五日 古札炎上祭

二十二日 御本殿置奉納奉告祭

二十五日 初天神祭

昭和天皇祭遙拝式



大晦日



斫始祭



古札炎上祭



祭事予定 二月

三日 節分追儺式

七日 北方領土返還祈願祭

八日 針供養祭

十一日 初午大祭

紀元祭

十四日 祈年祭・初穂講大祭

十七日 初甲子祭

十八日 旧大祓式

十九日 旧歳旦祭

祭事予定 三月

二十一日 春季皇靈祭

下旬 絵馬祭・絵馬炎上祭

三十一日 旧初午大祭

針供養祭

衣食住は人間生活の根源で衣類を縫うにはどうしても針の力によらなければなりません。従つて針の恵を思い、針を大切にするのは自然の情けであります。古くなつた針を粗末にせず一所に貯えておき、二月八日に針供養と称して、この日一日裁縫の仕事を休み、淡島神社へお参りし、古くなつた針を納めます。

当社では、境内末社に裁縫上達、縁結び、安産の神として信仰されている淡島明神が祀られています。当日は午後一時より拝殿において針供養祭を斎行し、用意された豆腐に、縫い針、釣り針、畳針など日頃使用している人たちの持参した古針を刺し納め、裁縫守護の恩恵を感謝します。



絵馬祭・絵馬炎上祭

祭事予定 四月

三日 神武天皇祭遙拝式

九日 例大祭

二十九日 昭和祭

祭事予定 五月

十日 御田植祭

二十七日 本宮祭

二十八日 ハ

二十九日 ハ

祭事予定 六月

二十八日 車の茅の輪くぐり

三十日 夏越の大祓

茅の輪くぐり



八重の藤

笠間稻荷神社の境内には四季を通して様々な花が咲きます。例年五月上旬に咲く二株の藤は見事で、樹齢四百年を超えていました。

社殿側にある八重の藤（写真上）は、蔓は左巻き、種子をつけない珍しい種類で県の天然記念物に指定されています。

もう一株の藤（写真右）は一重咲きで、満開になると藤棚いっぱいに広がり、花穂の長さが一・五メートルにもなる大藤で本県一の大きさを誇ります。

この時期は境内に甘酸っぱい香りが満ち、鑑賞しようと崇敬者や観光客が大勢訪れ、咲き誇る濃紫の大房に心を和めます。



授与品紹介

笠間稻荷神社では「おいなりさん」ならではのきつねにちなんだ授与品をご用意しております。今回はその中からいくつか紹介させていただきます。

和守 (にぎまもり)



稻荷の大神様に仕えるおきつねさまが幸運を招き、諸願成就—いろいろな願い事を叶えるお守りです。

きつね みくじ



せとものの中におみくじが入っております。一方は巻物を、もう一方は宝珠をくわえています。当社で人気のあるおみくじです。

夢叶守 (ゆめかなうまもり)

大神様に仕えるおきつねさまによって夢が叶うとされるお守りです。クリスタルの中におきつねさまが入っています。



縁守 (えにしまもり)

人間関係や仕事関係などの縁や今あるご縁を大切にするお守りです。



一願 成就守



願い事を心を込めて書き入れ、常に身につけておくお守りです。描かれているのは三つ柏と稻紋、おきつねさまと神馬です。

笠間稻荷神社日誌



平成二十六年

| | |
|----|------------|
| 赤字 | …祭典 |
| 青字 | …結婚式 |
| 黒字 | …講中参拝・正式参拝 |
| 緑字 | …行事 |

◆七月

六日 松戸鎌ヶ谷木材同業組合

十九日 水神講

笠間稻荷神社敬神婦人会総会

笠間稻荷神社敬神婦人会 会長塙菊枝様

矢口圭二様

二十六日 旧大祓式



◆九月

七日 国宝史蹟研究会 会長八幡義信様

武蔵野文化研究会 会長坂詰秀一様

同 常任理事加藤功様

八日 東京八方講・埼玉丸元講

高崎福田会 ご一同様

十五日 友の会 復興奉賛金奉納奉告祭

五丁目 友の会

十日 常陸農業協同組合 代表理事會長川上好孝様

大相撲笠間場所実行委員会

委員長川上好孝様

十二日 高崎福田会 ご一同様

十四日 東毛敬神講

十六日 高崎福田会 ご一同様

三日 献燈祭

二日 國學院大學指定実習(八日まで)

十九日 NHK大阪放送局 田中生泉様

二十一日 甲子祭

二十四日 宇都宮笠間講

二十七日 大洗磯前神社 吉田卓史様

三十日 真岡加波山登山講



◆十月

十七日 神嘗奉祝祭

十八日 菊まつり開催奉告祭

笠間の菊まつり開会

江戸消防記念会第六区

十九日 大河原稻荷神社崇敬会

二十日 甲子祭

桂会

二十四日 茨城県敬神婦人連合大会

茨城県敬神婦人連合会 会長 塙菊枝様

二十六日 「私の好きな笠間」图画コンクール表彰式

東京紋三郎講

東京中央講

横浜敬神会

二十七日 本宮祭

二十八日 長須職工組合

嶺稻荷神社 宮司松本淳様

二十九日 本宮祭

三十日 尚齒祭

下前笠間稻荷講

NHK大河ドラマ

全国巡回展(四日まで)

四日 株加藤物流

五日 初雁興業株間稻荷講

八日 喜多方笠間講



◆十一月

- 一日 笠間友部街商組合
結婚式 小川家・佐藤家
- 二日 尾崎稻荷講
結婚式 加茂家・黒澤家
- 三日 明治祭
神事流鏑馬
- 匝瑳立身太々講・笠間稻荷神社下谷参拝講
- 増森新田講・寄居笠間講
- 東武観光岩槻・五辻笠間講・南百笠間講
- 東京東西国八丁睦笠間勇山講
- 瑞穂觀光東部案内所・松伏地区笠間講
- 東京国立講・三峯山奥之宮神璽講社
- 八日 笠間示現流奉納
越谷穀信講
- 埼玉県トラック協会草加支部
正徳講・番匠免講
- 立野神社 宮司 戸澤務様
立野神社 護持会
会長 藤田佳史様
立野神社 氏子総代会
会長 大久保正様
大和古流奉納
公益社団法人日本青年会議所
関東地区茨城ブロック協議会
杉田周平様



- 十日 埼玉県神社庁比企支部野本・唐子地区
神社参拝団 八幡神社宮司 前原利雄様
- 十二日 美野里町盆栽会 井坂徳男様
- 十三日 野田市睦講
明治神宮崇敬会大宮支部
「ご一同様」
- 十四日 坂東市岩井職工組合
十五日 霜月祭
十六日 舞楽祭
- 十八日 西茨城神社総代会 徳藏常松様
東京都食肉事業協同組合城南ブロック様
- 十九日 小松稻荷講
日本大学教授 百地章様
- 二十日 絵画奉納 飛田硯水様
- 二十二日 假屋崎省吾の世界
常磐稻荷鎮守講・浦向笠間稻荷講
- 二十三日 新嘗祭・献穀献繭祭
二十四日 笠間の菊まつり閉幕
船橋大日講
- 二十六日 塩原温泉笠間講
二十七日 藤岡稻荷講
- 二十八日 埼玉県酒造組合中部ブロック
三十日 川口平和講
鹿嶋神社氏子会 総代 大岡一郎様



◆十二月

- 一日 当社責任役員会・総代会
(有)山崎石材店
- 四日 ゼリア新薬工業株・ロサラーンド株
(有)伊部
- 六日 茨城県菊花連盟菊花品評会表彰式
甲子祭
サンコー株
- 二十二日 御火焚串炎上祭
二十三日 天長祭
二十八日 鹿島祓
二十九日 大祓式

番外編 「世界の美女が笠間に！」

十一月十六日、今年のミスインターナショナルの五名が当社を訪れました。当日は舞楽祭だった為、巫女の舞楽を鑑賞し、菊人形展「軍師官兵衛」を見学。その後当社の震災での被災状況、現在までの復興状況について説明を受けました。境内では七五三のお祝いのお子様と写真を撮る一幕も。



講中を訪ねて

明誠講

当社が鎮座する茨城県笠間市に、富田久二さんが講元を務め、講創立時より新春初祈祷参拝を続ける明誠講があります。

明誠講は昭和四十二年、田島正治さんの呼びかけにより講を結成しました。講結成以来、水越信雄さん、田口秀伸さんら講元を中心になり、世話人が近隣に住む人や仕事、趣味の仲間等を説いて、年

初めに無病息災を祈り、各家庭や商店、会社に福を迎えています。

明誠講の講名は、結成時に先代塙瑞比古宮司が「明誠」という字を提案したことによ来していると伝わり、現役員の皆さんからも「明るく、誠の心で、という意味合いを感じて良い講名」との思いをお聞かせいただきました。

講員の大多数が地元・笠間に住み、世話人の方々が声を掛けて近年は一六〇名前後で一月初めに大祈祷式にて昇殿祈祷をしております。最盛期は四〇〇名近い講員の参拝があり、講参拝者数の現状を維持すること、さらに発展させることが大切であると効果的な講員募集の手段等を考え、今後の講運営の課題と向き合っておられます。

現役員の皆さんも「神様、稻荷神社を大切にしている親の背中を見て育つたから当たり前に信仰を続けてきた」と言い、神棚のお祀りをしていない家庭や、代々続けていた信仰を止めてしまう人もいる昨今の状況を憂慮されています。しかし、初めて講中参拝に参加した講員から「厳かな雰囲気の昇殿参拝はすばらしかった。是非続け

て参加したい」「巫女さんの舞に感動した」という声も上がり、「若い世代の参加が少なくなっているが、まずは神社に来てもらえるようにしたい」「昇殿祈祷をして初めて分かることも多いので、そこから信仰の尊さを学んでほしい」と講中参拝への参加を広く呼びかける努力をしていただいております。

役員の皆さんからは「大きな自然灾害が多い中、無事でいられることがお護りいただいていると感じる」「年に一度の参拝だが、時期になると一軒ずつ家庭をまわり、神社を通して地域が繋がっていることを実感する」「目の前が真っ暗になるような出来事に遭遇しても不思議と解決し、その後も大過なく健康に過ごしている。本当にありがたく、大神様の御加護に感謝している」等稻荷大神様の御神徳を受けられた折の感謝の思いや、神社が地元の心のよりどころとしてあり続けることの重要性を活発にお聞かせいただきました。

明誠講のさらなるご隆昌と講員皆様方のご健勝ご多幸をお祈り申し上げます。



講元
富田 久二

昭和8生まれ(82歳)
趣味:歴史・骨董・古家具

「自然の恵みや稻荷大神様への畏れと感謝を、日々の生活の中で感じることが大切だと思います。1年のはじまりに御神札をいだき毎日御札を申し上げる、当然のことを次の世代に伝えていますが、一度講参拝に参加してもらうことで実感できるのではないかと思います。今後は明誠講の講参拝人数が200名に届くよう、若い人たちにも積極的に参加を促していくつもりです。」



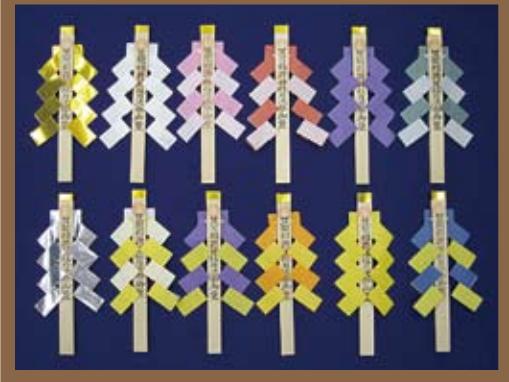
▲今回、取材にご協力いただきました明誠講役員の皆さん。

左より世話人・坪井智さん、講元・富田久二さん、世話人・田口敏伸さん、世話人・岡野安次さん。講員数の維持・増加の為に様々なアイディアを出し、また祈祷申込みの取り纏め等、人数の多い講の活動を支えています。
左上:谷繁一さん。取材当日はご欠席でしたが、長年世話人として講運営にご尽力いただいております。

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感謝し、新たな護神徳を頂くことあります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



厄除案内

当社では、厄年の厄、また日々の生活で少しづつ溜まつていく厄を祓う厄除の御祈祷を行つております。今年も安全で健やかにお過ごし頂けますよう、当社で厄除の御祈祷をお受けになつてはいかがでしょうか。

(初穂料 五千円より)

平成二十七年の厄年

(年齢は数え年です)

男性の本厄

一五歳(平成三年生)
四一歳(昭和四十九年生)

女性の本厄

一九歳(平成九年生)
三三歳(昭和五十八年生)
三七歳(昭和五十四年生)

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。
◎ホームページ
<http://www.kasama.or.jp/>

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致します。ご奉納頂ける方は笠間稻荷神社社務所までご相談下さい。ご奉納頂いた方の御芳名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



Q 節分祭とはどのようなお祭りですか？

A

節分祭は、冬の節から春の節に移る立春の前夜に行い、悪疫退散・除災招福を祈る神事です。

当神社の節分追儺式は、拝殿において、神職が古式に則り、桃の杖、葦の矢、桃の杖で追儺式を行います。

袴の矢、桃の杖で追儺式を行います。
袴の矢、桃の杖で追儺式を行います。

神社のいろは



Q 追儺式とは何ですか？

A

追儺式は宮中で行われる年中行事の一つです。「鬼やらい」「儺やらい」などとも呼ばれます。大晦日の夜、悪鬼を払い疫病を除く儀式でした。方相氏と呼ばれる鬼を払う役目の役人が黄金四つ目の仮面をかぶり黒衣朱裳を着て、手に矛と楯を持ちました。九世紀中頃になると、この方相氏は鬼を払う役目から鬼として追われる立場に転化していきました。

古く中国に始まり、日本には八世紀初め頃伝わったとされ、社寺、民間でも行われました。民間において節分の行事となつたのは近世のことです。

Q 節分祭はいつ行われますか？

A

毎年二月三日に斎行されます。

祭典は十五時と十九時から、追儺式は祭典終了後十六時、一九時三十分から行われます。

また、当日は一万円以上の厄除祈願を申し込まれた方に福升、福豆を授与しており、祈祷終了後には撒豆台から豆まきをして頂けます。

その他、ご質問等ございましたら、
神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稻荷神社社務所

☎0296(73)0001



笠間稻荷神社

社報「胡桃」No.34 平成26年12月発行 発行所／笠間稻荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001代 FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページhttp://www.kasama.or.jp/
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。